

令和4年度第2回倉敷市地域包括支援センター運営協議会議事要旨

1 会議名

令和4年度第2回倉敷市地域包括支援センター運営協議会

2 開催日時

令和5年2月2日(木) 10:00～11:30

3 開催場所

倉敷市役所本庁舎厚生棟2階207会議室

4 出席者

(1) 委員(13名)

猪木 真弓 (岡山県介護支援専門員協会倉敷支部)
岡本 育子 (倉敷市愛育委員会連合会)
佐賀 雅宏 (倉敷市社会福祉協議会)
佐藤 壽子 (倉敷市栄養改善協議会)
白神 佳樹 (倉敷市内歯科医師会協議会)
田口 明子 (倉敷市議会保健福祉委員会)
田野 広子 (岡山県備中県民局健康福祉部)
津田 由起子 (倉敷市介護保険事業者等連絡協議会)
中西 文明 (倉敷市老人クラブ連合会)
平尾 祐二 (岡山県社会福祉士会)
眞神 康一 (倉敷市連合医師会)
松村 隆司 (倉敷市連合薬剤師会)
渡辺 操 (倉敷ねたきり・認知症家族の会)

(※下記3名が欠席)

池島 由利子 (岡山県看護協会倉敷支部)
岡本 武義 (倉敷市民生委員児童委員協議会)
清水 加奈子 (岡山弁護士会)

(2) 事務局(11名)

渡邊 浩 (保健福祉局 参与)
林 徹 (健康福祉部 参事)
吉田 猛 (健康長寿課 課長代理)
宇野 香 (地域包括ケア推進室 室長)
小野 芳明 (地域包括ケア推進室 主幹)
田邊 昭一郎 (介護保険課 課長補佐)

井上 伸二 (福祉援護課 主幹)
本山 和人 (地域包括ケア推進室 副主任)
小野 貴美 (" 副主任)
小幡 俊輔 (" 副主任)
岡部 雅恵 (" 会計年度任用職員)

5 議題

- (1) 高齢者支援センターの取り組み紹介
- (2) 令和3年度倉敷市高齢者支援センター事業評価の結果報告について
- (3) 令和4年度高齢者支援センター巡回訪問の結果について
- (4) 令和5年度倉敷市高齢者支援センター事業計画(案)について
- (5) 令和5年度倉敷市高齢者支援センター事業評価基準(案)について
- (6) その他

6 傍聴者の数

無し

7 審議内容

1) 開会

2) あいさつ

渡邊保健福祉局参与が開会挨拶

3) 議事

(1) 高齢者支援センターの取り組み紹介

事務局より説明。

真備高齢者支援センターより「総合相談や実態把握調査を通じた地域活動」発表。

玉島地区保健師・看護師部会(玉島中部高齢者支援センター)より「玉島ケーブルテレビと協働で行ったフレイル予防の啓発活動」発表

両センター発表後、質疑応答。

委員A

地域のキーパーソンを民生委員としているが、他にも老人会の会議に行き、意見を聞いたりしないのか。高齢者の悩みは、高齢者が1番よく知っている。老人会に行けば、1番早く情報を得ることができるのではないかと感じる。老人会にも挨拶に行っていると言うが、積極性が足りないのではないかと感じる。

真備高齢者支援センター

高齢者の抱えている生活課題を把握するために、老人クラブなどの集まりに行き、聞くのが一番早いのではないかと。私もそのように思う。いろんな団体からも意見を聞かせて

いただいたり、小地域ケア会議に老人クラブの方に参加していただき、課題や地域の個別に気になる人の情報等の話を伺っている。今後、老人クラブの方にも話を伺う機会を作り、積極的に情報を収集させてもらいたい。

委員B

2点伺いたい。1点目は真備高齢者支援センターの取組みについて、地域診断を実施したということで、実態調査等をされて、こういった形で分析されているのか。2点目は、フレイル予防の取り組みについて伺いたい。玉島ケーブルテレビに協力いただいたということで、連携されてすごいなと思いながら動画を見させていただいた。ただ、玉島ケーブルテレビが視聴できるのは、主に玉島地区となるため、せっかく良いものができているのに、もったいないというのが正直なところ。可能であれば、DVDにして多くの方が手軽に見られるようにし、サロン活動等でも見ていただくことができるのではないかと。広く知ってもらうために、その他の横の連携など、今後計画があるのであれば教えていただきたい。

真備高齢者支援センター

地域診断については、地域の中で必要なもの、見守り体制等何かあればすぐ繋がる体制を作るためにどうしたらいいか、今までもあったであろう見守りに再度定義づける中で「ゆるやかな見守り」という名前をつけ、広げていくためにどうすればいいか等話し合っている。

委員B

もう1つ質問したい。発表の際に、民生委員や町内会長等との関係性も強くなって良かったという話もあったかと思うが、今後、地域へのアプローチ戦略を立てていく中で、地域全体が5年、10年してくると変わってくると思う。民生委員や町内会長が変わっていくなかで高齢者支援センターとの繋がり、ゆるやかな見守りが継続できていくように、その都度、関係者に意識付けをする必要性が出てくるが、その点はどう考えているのか。

真備高齢者支援センター

民生委員等任期があるため、当センターから改選時には挨拶に行くなど働きかけたり、小地域ケア会議を通じて、連携や活動の必要性、地域での取組みを共有し、一緒に考えるようにしていく。

玉島地区保健師・看護師部会（玉島中部高齢者支援センター）

2点目の質問について、DVDは作成している。玉島地区以外の保健師・看護師等とも連携をとる機会が定期的であり、その際に、このDVDの情報を伝えている。また、玉島ケーブルテレビから配布の了承を得ている。玉島保健推進室の保健師とも連携しているので、地区保健師から他の関係機関にも情報を流してもらう等、横の繋がり、連携を活用して情報共有を図っている。

副会長

真備高齢者支援センターが先ほど事例発表した実態把握調査について、自分自身も以前、高齢者支援センターの社会福祉士として勤務していた時期があった。その経験を踏まえて発表内容を聞き、

地域住民の訪問をしながら、地域診断までされていることは素晴らしいことだと思った。地域診断に至るまでに、実態把握調査で1件1件訪問し、時に変な勧誘に間違われたり、全く話も聞いてもらえないこともあり、そうした苦勞をたくさんされてきたのではないか。その苦勞の積み重ねの上に、形として出来上がったものではないか、そのようなプロセスを知ってもらうことも大事ではないかと思い少し話をさせてもらった。

委員C

玉島地区保健師・看護師部会の取組みについて、玉島ケーブルテレビの協力で動画を流すことにより、予防の部分で病院に行くまでもなく、高齢者支援センターに相談するまでもなく、自分の体を気にしながら少し運動しようというきっかけになるのはすごく大事なことだと思った。この取組みは、玉島ケーブルテレビにセンターから協力を依頼したのか、それとも先方からか。その辺りが重要かなと思うので教えていただきたい。また、理学療法士や薬剤師等、高齢者支援センターの専門職だけでなく、他の専門職も参加しており、内容も充実している。日頃から繋がりが何かあるのか、意図的に何か働きかけをしているのか教えてもらいたい。

玉島地区保健師・看護師部会（玉島中部高齢者支援センター）

1つ目の質問について、玉島ケーブルテレビへは、センター職員の思いつきから始まって依頼させてもらった。2つ目の質問については、普段から連携しているところに働きかけを行った。

会長

真備高齢者支援センターに質問したい。先ほどの老人クラブ等で活動されないのかどうかという質問に関連するが、そもそも高齢者の相談内容やニーズは、プライバシーに関わるようなことが多く、そうした場では活動が難しいのか。実際、高齢者の方はどういうことを言われることが多いのか。その内容があまりにも人前で話す内容ではないから老人クラブなどで活動されてきていないのではないかと思ったがどうか。

真備高齢者支援センター

地域住民の団体の会合に行かせてもらう中で、何か困っていることはないかという話をさせたもらうこともある。ご質問のように個別ケースになると、後から「実は」と連絡をいただくことがある。具体的な相談内容は様々で介護や虐待問題、家族間の問題、近隣との問題、ご近所の方で気になる方がいるなどさまざまである。

- (2) 令和3年度倉敷市高齢者支援センター事業評価の結果報告について
事務局より説明。質疑なし。
- (3) 令和4年度高齢者支援センター巡回訪問の結果について
事務局より説明後、質疑応答。

会長

実態把握調査の新規訪問件数で、フレイルが懸念される方への訪問を重視したためと書いているが、そもそもフレイルが懸念される方々をどうやって抽出したのか。医療機関や市独自のアンケート等どういったもので対象者を抽出したのか。

事務局

高齢者支援センターは、住民主体で行うサロンや通いの場で講師をしたり、活動のサポートなどを行っている。コロナ禍で活動が自粛になった時に、サロンの代表の方などと連絡を取ると、今まで定期的に会えた人たちと会えなくなり、交流の場が少なくなったために家に引きこもりになった、運動しなくなったといった声を聞くことが多くあった。今までサロン等に出向き参加者に変わりないか聞いていたが、それが難しい状況である。そのような状況から気になる人へはセンター職員が個別に実態把握調査で対応する必要があったと聞いている。

- (4) 令和5年度倉敷市高齢者支援センター事業計画（案）について
事務局より説明後、質疑応答。

委員D

少し話は違うかもしれないが、高齢者支援センターの人員配置はどう考えているのか。人数が足りないというのが現実だと思う。高齢化率が非常に高くなっており、その中で、少ない人数で高齢者支援センターの職員が大変な思いをしているのではないか。高齢者支援センターの人数を増やしてあげられないものか。

事務局

高齢者支援センターの人数については、基準が設けられており、一定の高齢者の人口によって、専門3職種を配置するというのが基本。高齢者が増加している中、業務量過多ということは聞いている。

会長

その法令で定められた人数よりも増やして欲しいという意見と思うがどうか。

委員D

今年度は増員することは難しいか。

事務局

すぐに増員は難しい。市としても、人員の他に、高齢者支援センターにおける事務的な作業を見直すなど効率化できるよう取り組んでいる。

委員E

住民との連携を考えた時に、センターの負担がもっと減れば良いと思う。例えば、介護予防教室

や認知症サポーター養成講座など、事業所でも取り組んでいるところもあるし、キャラバンメイトの方も増えてきている。相談支援の方に力を入れてセンターがやるというのであれば、基準の回数を減らす、センターは後方支援にまわるといったことも考えていいと思う。

事務局

センターが認知症カフェの立ち上げや運営をしているところもあり、それがきっかけで地域でも徐々に認知症の取組みをやってみようという方も増えてきている。

市も認知症サポーターや認知症マイスターを養成し、地域での活動を推進し、地域づくりの輪が広がるよう働きかけている。センターもそういった地域活動の側面的な支援をしたり、徐々にセンターから住民主体に移行するよう努めている。

会長

この事業計画（案）について、承認ということによろしいか。

委員承認

- (5) 令和5年度倉敷市高齢者支援センター事業評価基準（案）について
事務局より説明後、質疑応答。

委員E

例えば、各種教室等の回数について、先ほどもお願いしたが、センターが実施するだけでなく、その圏域内の事業所が実施をした教室も回数にカウントはできないのか。

事務局

教室の開催回数については、センターが企画をして、実施する回数と位置付けている。質問にあったように、センターの圏域内の他団体が同様の教室をした場合、センターの実績に加えることは想定していない。センターが自ら実施する回数を考えている。市としては、今までの実績を踏まえ1年間で実施可能な回数を基準としている。

委員E

来年度はこれでいいと思うが、今後、センターの圏域内の他団体が地域活動を実施する際、センターが後方支援をしたことが評価できるような項目ができればよいと思う。

会長

教室事業は、市から外注できないということか。

事務局

センターが企画をし、教室のテーマに応じて外部講師を依頼することはある。多職種と連携して教室を開催することは可能。

会長

この事業評価基準（案）について承認ということによろしいか。

委員承認

4) 閉会挨拶

林健康福祉部参事が閉会挨拶

会議録の内容に相違ないことを確認し、ここに署名する。

倉敷市地域包括支援センター運営協議会

令和 年 月 日

会 長



副会長

